

2007年2月6日 電話会議

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

2007年3月期第3四半期業績概況資料

(2871)

株式会社ニチレイ

【お問合せ先】

広報IR部 横山一樹

: 03-3248-2235

E-mail: yokoyamakz@nichirei.co.jp

URL: <http://www.nichirei.co.jp/ir/index.html>

第3四半期は減収・増益、通期は売上目標を引き下げ

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

2007年3月期第3四半期連結業績と通期業績見込

単位:金額 = 億円 (未満切捨て)	3Q		1~3Q		4Q		通期		
		前年比		前年比	(E)	前年比	(E)	前回(E)比	前年比
売上高	1,229	-40	3,531	-93	1,073	+4	4,605	-130	-89
営業利益	65	+12	148	+17	32	+3	181	-	+20
経常利益	62	+11	142	+14	28	-0	171	-4	+14
当期純利益	38	+8	100	+42	10	+5	111	-	+48

1. 売上高

注:(E)は今回発表した見込、前回(E)は11月2日に発表した見込

第3四半期(10~12月)は低温物流が物流ネットワークと海外の好調で前年比増収、一方、販促費支出の見直しを進めている加工食品が減収のほか、水産・畜産も前年に届かず全体で3%減収。

通期は前回目標から130億円下方修正、加工食品は大幅減収、畜産は売上回復の時期が見込みより遅れる。

2. 営業利益

第3四半期は前年比23%の大幅増益、水産の黒字化と物流ネットワークの採算向上、地域保管のコスト削減が進む低温物流が寄与、加工食品は微増益。

通期では加工食品の目標を引き下げるが、海外事業が回復を始めた低温物流や水産・畜産の見込み改善でカバーし全体では当初目標を達成する。

3. 経常利益・当期純利益

第3四半期の特別損益は1億円のプラス。通期では当期純利益が過去最高となる見通し。

増配を決定一株当り8円とする。今後はDOE(株主資本配当率)と配当性向を勘案した配当方針に。1

水産は第3四半期黒字に、加工食品は通期目標を引き下げ

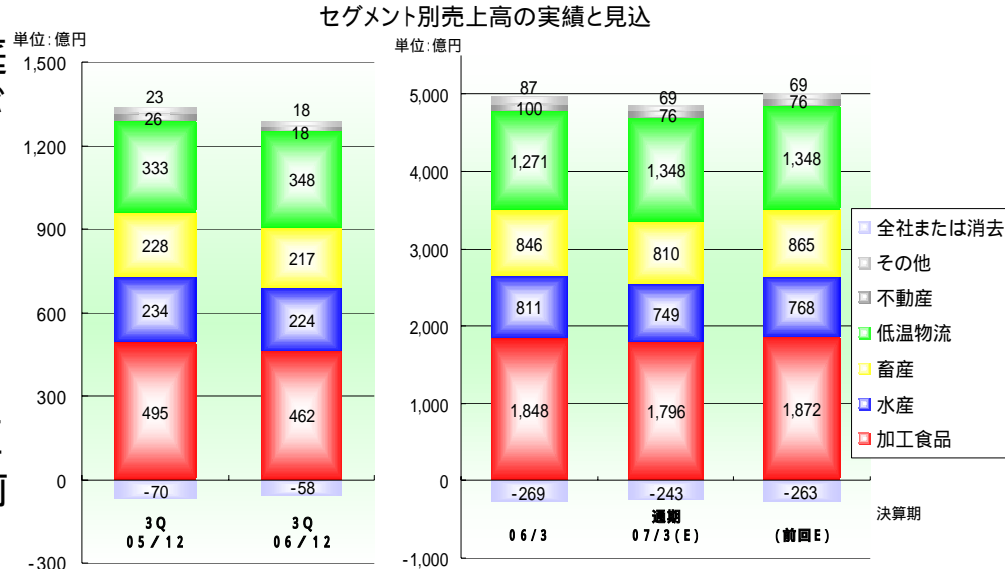
「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 **Nニチレイ**

1.加工食品

セグメント別売上高と営業利益(その1)

第3四半期の売上は前年比7%の減収。家庭用の減収に加え、拡大を続けてきた業務用が値上げの影響などで停滞した。冷凍野菜、アセロラも伸び悩んだ。一方、営業利益は販促費見直しによる採算改善や物流費の圧縮が進み1億円の増益を確保した。

通期目標は、売上を76億円下方修正、営業利益は5億円下方修正するも、販促費の見直しによる採算改善や固定費の削減の結果、前年比では10億円の増益となる。



(以下、グラフの金額単位表示未滿は四捨五入し一部で端数調整のため切り上げ・切り捨てを行っている)

2.水産

再生プランによる25%要員減と取扱い商材見直しの中で、第3四半期の売上は前年比4%の減収となった。営業利益は販売環境が好転した「かに」や商材マイスターモデルの確立が進む「魚卵類」が好調に推移、採算改善に寄与し第3四半期は黒字となった。

通期目標は、引き続き取扱い商材の見直しを進めることから、売上は前回から19億円引き下げ前年比8%の減収に、営業損失見込みは前回より1億円上方修正。

3.畜産

第3四半期は前年比減収、輸入チキンの需要減と、加工用原料向け輸入ポークの調達競争激化が響いた。一方、営業利益はブラジルチキンの在庫処理が一巡し採算が改善したことで増益。

通期では売上目標を下方修正、一方、輸入チキンの仕入価格低下で引き続き採算が改善、利益目標は1億円上方修正。

低温物流は海外の業績改善が進み利益目標を上方修正

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

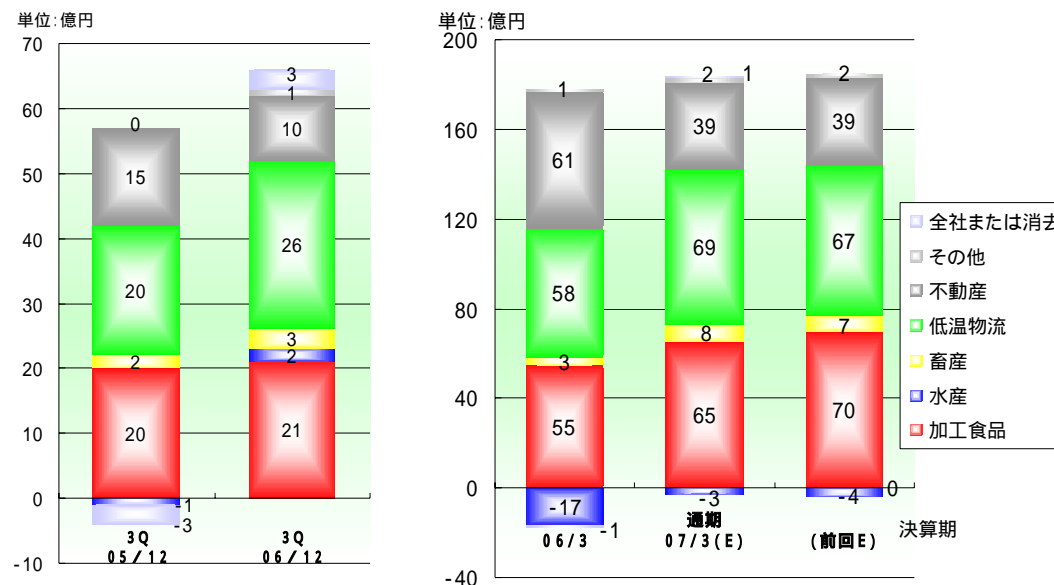
セグメント別売上高と営業利益(その2)

4.低温物流

第3四半期は、全体で増収・増益。ネットワーク事業で新設稼働センターが増収に貢献、運送の採算改善も順調に進み増益にも寄与、地域保管は停滞在庫の解消が進むなか売上高は微減だがローコスト化の取り組みが進捗し増益を継続。

通期では、利益目標を2億円上方修正。欧州地区で好調な運送に加え、果汁保管の回復と積極的な集荷活動による保管の採算改善が進む海外事業が貢献する。

セグメント別営業利益の実績と見込



5.不動産

第3四半期は茨城県牛久市や静岡県焼津市の分譲を実施したものの、大型案件がなく売上・利益とも前年を下回った。

通期では千葉市花見川区などの宅地分譲を進め利益目標を達成する見通し。

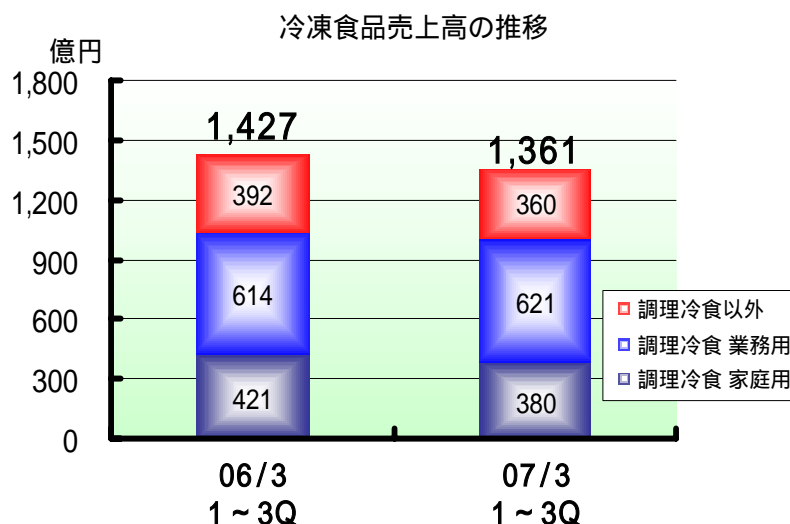
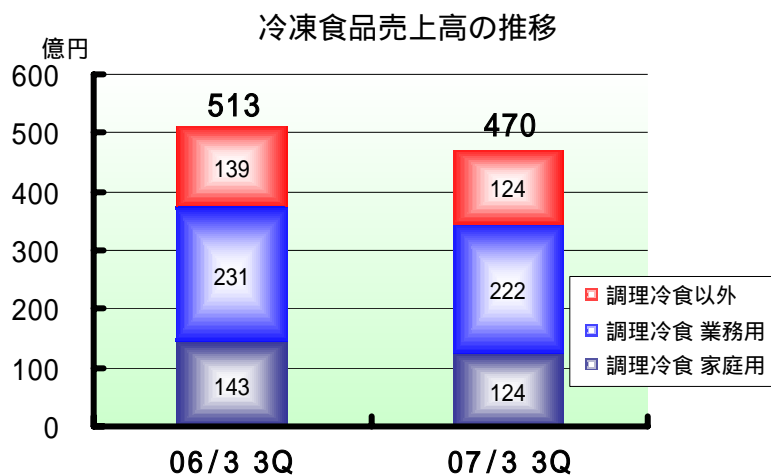
6.その他

第3四半期は、前期末で営業を停止した食品卸売子会社の売上が無くなり前年比減収、バイオサイエンスは培地製品が順調に推移し増収・増益、米国のてんぐは生産を大幅に縮小した状態が続いている。通期の全体での売上・営業利益目標は据え置く。

第3四半期の調理冷凍食品は家庭用に加え業務用も停滞

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 **Nニチレイ**

第3四半期冷凍食品売上高



注：水産品、畜産品の商品分類変更により、「調理冷食以外」に含まれている冷凍食品に該当する水産品、畜産品の対象範囲が変更になった。
これにより06/3の数値を遡及修正しており、影響額は3Qでプラス13億円、1~3Qでプラス23億円である。

1. 冷凍食品全般

第3四半期(10~12月)は前年比8%の減収、4~12月累計でも5%減収。家庭用・業務用を合わせた調理冷食全体ではチキン加工品が増収を維持するものの米飯類、ハンバーグなど食肉加工品やコロッケ類が前年を下回った。冷凍野菜は天候不順による枝豆の不振とポテト類が伸び悩み減収。

2. 調理冷食

家庭用：第3四半期は13%減収。価格や販促費見直しの取り組みを進めるなか主力商品の「からあげチキン」「ミニハンバーグ」が前年割れとなったのが響いた。『お弁当にGood!』は「こてこてソースのミンチカツ」「レンコンひき肉はさみ揚げ」が好調に推移したものの、シリーズ全体では伸び悩む。

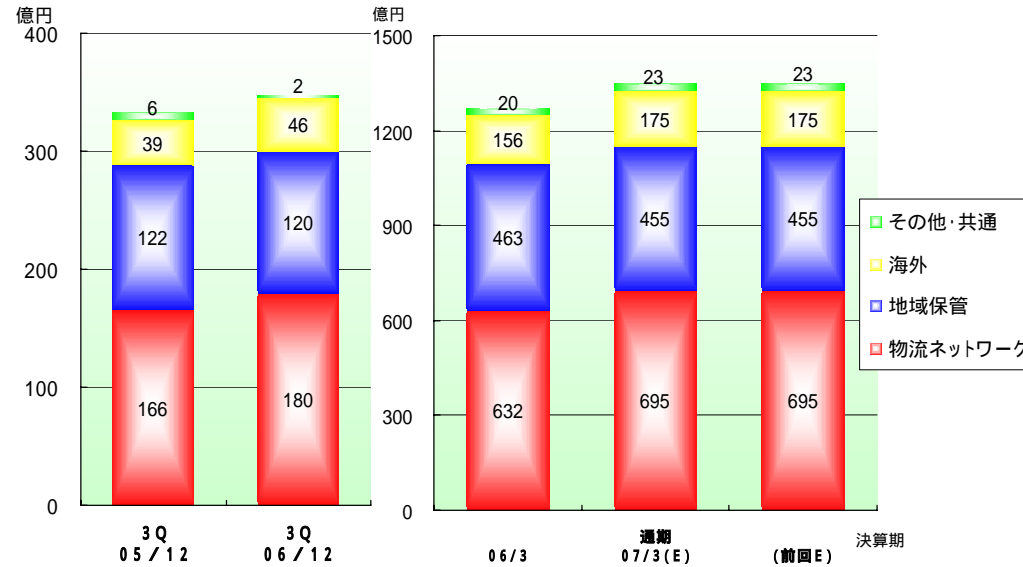
業務用：第3四半期はチキンや畜肉製品の値上げが影響し4%減。カテゴリー別ではフライドチキンなどのチキン加工品は増収を維持したものの、ハンバーグなど食肉加工品やコロッケ類が伸び悩んだ。惣菜業態向けの『ほっとするおかず』シリーズは「枝豆と豆腐のふんわり天」をはじめ好調に推移した。

物流ネットワークの拡大に加え地域保管の採算改善も継続

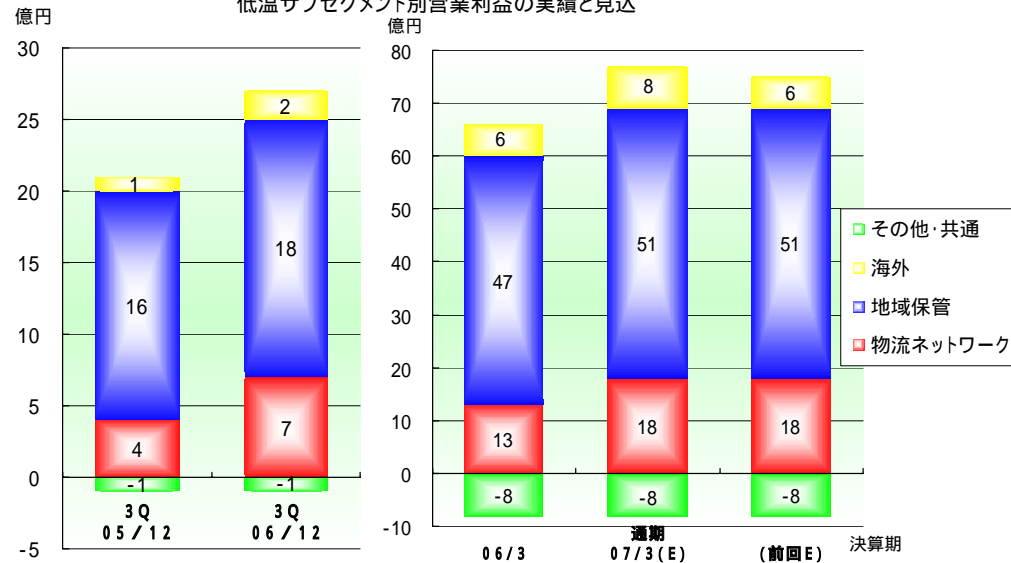
「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 **Nニチレイ**

低温物流事業のサブセグメント別対前期比増減要因と通期見込

低温サブセグメント別売上高の実績と見込



低温サブセグメント別営業利益の実績と見込



1. 物流ネットワーク

第3四半期は増収・増益。通期では、新設稼動した3ヶ所のセンターが増収に寄与、運送の粗利益率向上や不採算事業所の改善が順調に進み新設センターの初期費用を吸収し、売上・利益目標を達成する見通し。

2. 地域保管

第3四半期の売上は在庫の滞留が解消するなか前年を下回ったが、マンパワーコストの削減効果により増益。通期では地域密着営業による集荷活動の継続とローコスト運営体制の定着により、売上・営業利益とも目標を達成する見通し。

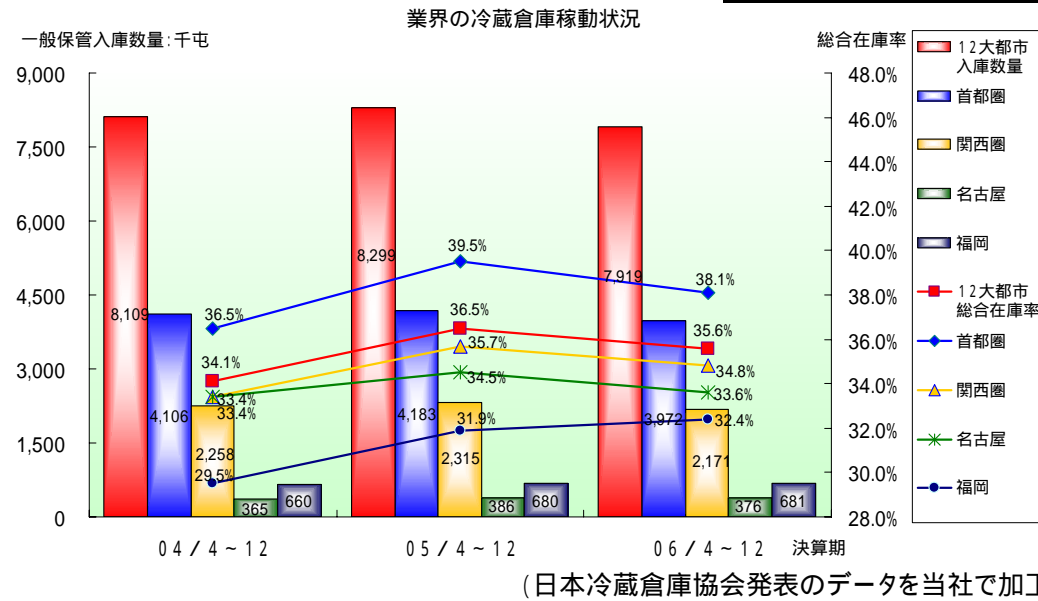
3. 海外

第3四半期は前年比増収・増益。欧州ではEU拡大による旺盛な需要を取り込み運送が大きく貢献した。通期ではハリケーンの影響で不振の果汁保管の回復と、積極的な集荷活動の成果がではじめており、利益目標を2億円上方修正。

業界の入庫量・在庫率はともに前年を下回る

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 **Nニチレイ**

冷蔵倉庫の稼働状況

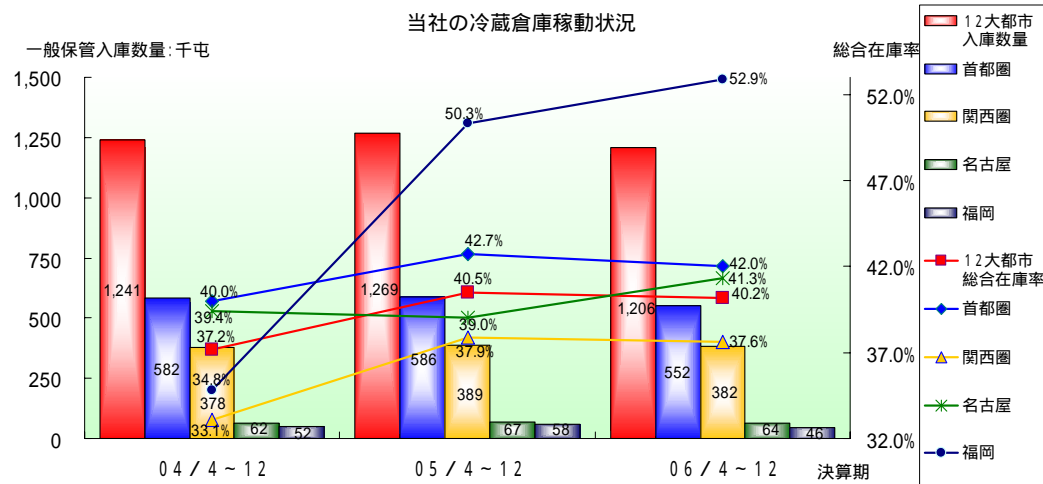


1. 業界の状況

入庫量・在庫率ともに通期では前年を下回る。水産物輸入量は減少傾向が続くが、年末にかけ畜産物輸入量に回復の兆し。

2. ニチレイグループの状況

通期では畜産物の搬入量が減少しており入庫量は前年を下回るが在庫率は前年水準を維持している。



通期の特別損益はプラスに

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

単位:億円、単位未満切り捨て プラス表示は利益を示す	第3四半期(10~12月)				通 期		
	06/12	05/12	増 減		07/3E	06/3	増 減
【営業外収支】 (主要項目)	- 3	- 2	- 1	【営業外収支】 (主要項目)	- 10	- 3	- 6
金融収支	- 1	- 2	+ 1	金融収支	- 8	- 10	+ 2
持分法投資損益	- 0	+ 2	- 2	持分法投資損益	+ 6	+ 10	- 4
【特別損益】 (主要項目)	+ 3	+ 2	+ 1	【特別損益】	+ 20	- 25	+ 45
固定資産売却益	+ 0	+ 22	- 22				
過年度固定資産税還付金	+ 5	-	+ 5				
固定資産売却損	- 0	- 4	+ 4				
事業所閉鎖損失	- 0	- 15	+ 15				

持分法投資損益の増減の主な内訳

通 期:アールワイフードサービスが下期から持分法適用会社から外れ 3億円。

冷蔵倉庫の過年度固定資産税過払い分の還付によるもの。

第4四半期に発生が見込まれる主なものは固定資産売却損・除却損。通期でプラスとなるのはアールワイフードサービスの株式売却益のほか、減損損失が大幅に減少することによるもの。

データ集

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

セグメント別売上高・営業利益の実績・見込・前回見込・前年実績

単位：億円(単位未満四捨五入、一部で端数調整あり)

	第3四半期 (10～12月)		第3四半期累計 (4～12月)		第4四半期 (1～3月)		通期		
	06/12	05/12	06/12	05/12	07/3	06/3	07/3 (E)	07/3 (前回E)	06/3
(売上高)									
加工食品	462	495	1,375	1,428	421	420	1,796	1,872	1,848
水産	224	234	598	661	151	150	749	768	811
畜産	217	228	617	645	193	201	810	865	846
低温物流	348	333	1,020	964	328	307	1,348	1,348	1,271
不動産	18	26	53	66	23	34	76	76	100
その他	18	23	53	68	16	19	69	69	87
全社または消去	-58	-70	-185	-208	-58	-61	-243	-263	-269
合計	1,229	1,269	3,531	3,624	1,074	1,070	4,605	4,735	4,694
(営業利益)									
加工食品	21	20	53	50	12	5	65	70	55
水産	2	-1	0	-9	-3	-8	-3	-4	-17
畜産	3	2	6	3	2	0	8	7	3
低温物流	26	20	61	51	8	7	69	67	58
不動産	10	15	28	38	11	23	39	39	61
その他	1	0	1	0	1	1	2	2	1
全社または消去	3	-3	0	-2	1	1	1	0	-1
合計	66	53	149	131	32	29	181	181	160

注：07/3(E)は今回発表した見込、(前回E)は2006年11月2日に発表したもの

当資料取扱い上のご注意

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

当資料に記されたニチレイの現在の計画・見通し・戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであります。将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「確信」、「期待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「予測」、「予想」その他これらの類義語を用いたものに限定されるものではありません。これらの情報は、現在において入手可能な情報から得られたニチレイの経営者の判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これらの業績見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。このため、これらの業績見通しのみ全面的に依拠して投資判断されることは、お控えいただくようお願いいたします。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果にかかわらず、常にニチレイが将来の見通しを見直すとは限りません。実際の業績に影響を与え得るリスクや不確実な要素には、以下のようなものが含まれます：

- 食品に関する衛生問題等
- 商品や原材料の価格変動
- 商品回収リスク
- 固定資産の保有リスク
- 保有有価証券の時価変動リスク
- 為替変動リスク

など

ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。また、リスクや不確実な要素には、将来の出来事から発生する重要かつ予測不可能な影響も含まれます。当資料は、あくまでニチレイをより深く理解していただくためのものであり、必ずしも投資をお勧めするためのものではありません。